

倉敷本通り商店街

(倉敷本通り商店会)

岡山県倉敷市

インバウンド

地域協働

新陳代謝

生産性向上

ポイント

地域住民や行政と作り上げた「まちづくり協定」で地域の特性を活かした取組を推進。新たな顧客層の獲得に成功。

基本データ

所在地	岡山県倉敷市阿知
人口	約 48 万人 (倉敷市)
電話/FAX	086-425-3184 / 086-425-3184
会員数	25 名
店舗数	27 店舗 (小売業 21 店、飲食業 5 店、不動産業 1 店)
商店街の類型	エリア価値向上型
主な客層	国内観光客、家族連れ (親子) / 50 歳代、60 歳代

商店街概要

倉敷本通り商店会は、昭和 47 年にアーケードの設置に伴って商店街として組織化された。倉敷駅南東の倉敷商店街の最南部に位置する商店街であり、観光で有名な美観地区内にある唯一の商店街。地域住民だけでなく多くの観光客が訪れている。

平成 11 年、平成 23 年に 10,000㎡を超える超大型商業施設が市内に進出するなど、市内商業施設の大型化が進み、商店街の売上には影響が出たが、中心市街地活性化基本計画等による事業成果などにより、歩行者通行量は増加傾向にある。

取組の背景

若者や観光客が買い物したくなる商店街に

商店街を訪れる来街者は、50 代以上のシニア層が大半を占めており、若年層は大型商業施設やインターネットで買い物をする傾向にある。今後はシニア世代のみならず、若年層を引きつけるようなコンテンツを増やし、幅広い世代を取り込んでいくことが課題と認識している。

また、倉敷市の美観地区は、年間に 300 万人以上の観光客が訪れる全国的に有名な観光地であるが、観光動態調査によると、一人当たりの平均滞在時間は 3.74 時間と短く、来街者数の割に消費をしていないものと推察される。中心市街地に立地する商店街として、美観地区へのゲートウェイである利点を活かし、いかに観光客を誘客し、回遊させるかが課題であった。これらの課題解決に向け、行政等、各団体との連携により、美観地区に隣接する商店街にふさわしい「景観」「町並み」「観光地」に配慮した取組をすることとなった。



アーケードを撤去する前の商店街



アーケードを撤去した結果、古い蔵が見えるように

取組の内容

「まちづくり協定」を活かした商店街活性化

平成 7 年から、月に 2 回、店主、市の担当者、住民が集まり、「老朽化したアーケードを今後どうするか」等、今後の商店街のあり方や将来像について協議する勉強会を行っている。勉強会の成果として、「美観地区に立地している強みを活かす」、「観光客に楽しんでもらう」等、商店街の将来像が明確になり、その実現のために店主が守るべき約束事「まちづくり協定」を策定した。

以降、このまちづくり協定に基づき、アーケードの撤去や、電線類の地中化、各店舗のファサード整備など、景観、町並みに配慮した店舗づくりに取り組んでいる。

平成 24 年 3 月には、倉敷市第 1 期中心市街地活性化基本計画 (平成 22 年 3 月～27 年 3 月) の中核事業として、官民が連携して整備した「林源十郎商店」が本通り商店街にオープン。同施設は古い建物をリノベーションした商業施設で、地域資源を活用した商品の販売や、イベントの企画を行うなど、中心市街地の新たな魅力として、若者や観光客が多く訪れるなど新たな賑わいを生みだしている。

また、観光地に立地していることを活かし、夏祭りや雑巡りなど、近隣商店街同士の連携によるイベントの開催に加え、商店会女性部と倉敷観光コンベンションビューローの連携による「生花展」や「アートフェスタ」、公益財団法人大原美術館との連携に

よる、美術作品を商店街に展示する「商店街まるごと美術館」を開催している。さらに、倉敷商工会議所が主催する高梁川流域「倉敷三斎市」における、イベントの情報発信など、各団体と協力連携しながら、積極的に観光客の誘客を図っている。

こうしたソフト事業とハード事業による様々な取組の結果、これまでのメインターゲットであったシニア層に加え、新たな顧客層である若者世代や地域外からの観光客が長時間楽しむことができる商店街へと変化し、歩行者通行量も順調に増加している。平成29年度の休日歩行者通行量は、直近20年間で最も多い結果となるなど、注目を集めている。



新規店舗、改装する店舗も町並みに配慮した外装に統一

取組の成果

地域一体で「商店街づくり」から「まちづくり」まで

毎月今後の事業内容や計画について協議検討を行う会議を開催しており、「商店街づくり」だけでなく、「まちづくり」について検討している。

また、市の経済部門担当である商工課や、中心市街地活性化基本計画を担当しているまちづくり推進課など、様々な部署と意見交換を行いながら、PDCAに基づいた事業の進捗管理を実施している。

今後は、これらの協議や意見交換等を踏まえ、電

線類地中化の推進や空きスペースを活かしたイベントの開催など、新事業の実施を検討している。

実施体制

商店会に役員（会長1名、副会長2名、会計2名、理事若干名、監事2名）を設置し、継続的・安定的な運営体制を構築している。

イベントの実施に際しては、地域住民とうまく連携を図りながら実施するとともに、新たな事業実施に際しては行政や関係商工団体等の有する情報やネットワークをうまく活用しながら着実な実施を図っている。

また、事業に必要な財源については、「まちづくり協定」に基づき月5千円の会費を徴収しており、イベントや新規事業等に活用している。



中心市街地の新たなランドマーク「林源十郎商店」

キーパーソンからのコメント



倉敷本通り商店会 会長
倉敷商店街振興連盟 会長
野嶋 雅弘

日本一町並みの美しい商店街を目指して

時代とともに商店主は入れ替わりますが、受け継ぎ、守らなければならない景観・町並みがあります。

お金がかかる取組ですが、「まちづくり協定」を各店主にご理解いただき、ファサード整備など、町並み・景観に配慮した商店街づくりに取り組んだ結果、町並みの美しい商店街として、多くの方から評価をいただくようになりました。

“まちづくり協定”がなければ、今の町並みは守られていなかったのではないかと思います。

官民連携による中心市街地活性化事業

平成24年に官民連携による中心市街地活性化事業の一環として、昭和初期の建物を改修・再生した複合商業施設「林源十郎商店」がオープンしました。

倉敷美観地区の新たなランドマークとして、多くの賑わいを生み出し、若者や観光客が商店街を訪れるなど、人の流れが変わったと実感しています。

今後も引き続き、地域住民や行政、各団体と協力連携しながら、まちの魅力を高める商店街づくりに取り組んでまいります。